

会 報

No.19

1984年10月
日本分子生物学会
事務局発行

◆第7回 日本分子生物学会年会のお知らせ

年会プログラムが印刷できましたので、お届けいたします。年会についてのお問い合わせ、ご連絡は下記にお願い致します。

〒565 大阪府吹田市山田丘1-3
大阪大学細胞工学センター
遺伝子構造・機能調節部門
松原謙一
電話 06(877)5244

◆昭和58年度 会計収支決算報告

昭和58年度 会計収支は以下の通りになりましたので報告いたします。

会計監事 溝 渕 潔

〔I〕 収 入		〔II〕 支 出	
摘 要	金 額(円)	摘 要	金 額(円)
学会費(含入会費)	2,929,750	1. 事業費	(993,500)
賛助会費(21社,30口)	900,000	会報発行	213,500
名簿売上	3,000	第6回年会プログラム	100,000
年会要旨売上	10,500	第6回年会特別講演謝金	80,000
預金利息	20,273	第7回年会補助	600,000
前年度からの繰り越し	2,276,757	2. 評議委員会	(200,400)
(計)	6,140,280	会合旅費	200,400
		3. 一般事務費	(1,148,970)
		一般事務用品費	32,860
		印刷費	111,355
		郵送費	573,790
		一般事務謝金	417,500
		その他	13,465
		4. 翌年度へ繰り越し	3,797,410
		(計)	6,140,280

会計監査報告

昭和59年9月13日 会計簿、預金通帳、領収書、学会費等払込通知票などの監査を行ない、決算に誤りのないことを確認した。

日本分子生物学会会計監査

上代淑人 ㊟

三浦謹一郎 ㊟

◆昭和59年度 学会費納入についてのお願い

今年度は事務局多忙のため会費未納の方でも未納の印を押してありません。未納の方は二票式の郵便振替用紙で納入して下さい。

なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を本学会事務局に提出して下さい。

記

正会員学会費 2,500円

(但し、在学証明書を提出したときは、2,000円)

学会費納入のための郵便振替口座

東京 2-13518

日本分子生物学会会計事務局

なお、郵便振替口座名は昭和60年4月以降学会センターに変わる予定ですので、ご注意下さい。

◆第12回 核酸化学シンポジウム 予告(2)

と き 昭和59年10月30日(火)～11月1日(木)

と ころ 金沢大学医学部十全講堂

(金沢市宝町13-1 TEL (0762) 62-8151 内線 2228)

[交通] 国鉄金沢駅より北鉄バス錦町行きまたは金沢女子短大行き、小立野(こだつ)の停留所(約25分)下車、徒歩5分

共 催 日本分子生物学会・他

プログラム

第1日(10月30日) 9:05～17:45

9:10～9:50

1-01 ビリミジン系核酸塩基の酸化修飾に関する有機化学的研究

(京大・薬)・原山 尚, 柳田玲子, ㇿ子佳代子, 米田文郎, 多賀 徹, 大崎健次

(熊大・薬) 永松朝文

1-02 アスコルビン酸—銅(II) イオン—酸素系によるチミンの酸化反応

(広島大・工) ○木下達之, 井藤壮太郎, 佐々木和夫

9:50 ~ 10:30

1-03 プリン, ピリミジン誘導体の互変異性化を用いる合成反応

(阪大・工) ○近藤紘一, 竹本喜一

1-04 フェニルアラニン転移リボ核酸の蛍光塩基の合成研究

(金沢大・薬) 板谷泰助, ○水谷朱見

10:30 ~ 11:30

1-05 プリン環の重なり構造と淡色効果との関係

(阪大・産研) 浜 文雄, ○坂田祥光, 三角荘一

1-06 ピリミジン塩基およびその誘導体の蛍光ラベル化とHPLCによる分離定量

(京都薬大) ○岩本真樹, 吉田 滋, 広瀬信吾

1-07 ^{18}F 標識ピリミジン化合物の合成と腫瘍診断用トレーサーとしての評価

(東北大・サイクロ) ○石渡喜一, 井戸達雄, 高橋俊博, 門間 稔, 岩田 錬

(東北大・抗研) 阿部由直, 松沢大樹

(東北大・医) 鶴見勇治, 亀山元信

11:30 ~ 12:30

1-08 動物細胞の蛋白質合成におけるQ塩基の影響

(国立がんセンター) ○口野嘉幸, 松本守正, 細田 誠, 星野洪郎, 西村 暹

1-09 スクレオシドの新規合成法

(愛媛大・工) 尾崎庄一郎, ○渡辺 裕, 星子知範, 藤沢 浩, 上村敦彦,

生頼一彦

1-10 C- β -D-リボフラノシル酢酸誘導体の合成とそれを用いた二, 三のC-スクレオシドの合成

(東北大・薬) ○片桐信弥, 羽田 融, 高橋直子

13:30 ~ 14:30

1-11 安定なデオキシリボスクレオシド-3', 5'-環状ケイ素誘導体 —その生成と性質

(工技院・織高研) ○古沢清孝, 曾良達生, 坂井 士, 津田圭四郎

1-12 5-置換-6, 2'-O-シクロウリジンの立体選択親電子付加反応

(徳島文理大・薬) ○丸山徳見, 木村修平, 佐藤佳子, 本庄美喜男

1-13 2', 3'-O-イソプロピリデンアデノシンと酸塩化物との反応による8, 5'-O-シクロ体の生成及びアデニン環の開裂反応

(理研) ○安斎謙太郎, 鶴沢 洵

14:30 ~ 15:30

- 1-14 プリン-8,5'-イミノおよび置換イミノ-シクロヌクレオチド類の系統的合成
(名大・工) 佐々木正, 源 勝磨, 藤木保実, ○塩見仁郎, 宇田頼明
- 1-15 2'-デオキシ-8,2'-メチレンシクロプリンヌクレオチドの合成と性質
(昭和大・薬) ○松田 彰, 渡辺一之, 宮坂 貞
(北大・薬) 上田 亨
- 1-16 8,2'-エタノシクロ-2'-デオキシアデニン類の合成
(北大・薬) ○碓井博幸, 上田 亨

15:45 ~ 16:45

- 1-17 新ヌクレオチド抗生物質 ascamycin の構造と生物活性
(理研) ○磯野 清, 浦本昌和, 長田裕之, 生方 信, 日下部寛男
(雪印乳業・生科研) 小山忠義, 宮田信夫
(Utah 大・薬) S. K. Sethi, J. A. McCloskey
- 1-18 抗寄生原虫作用を有するヌクレオチド類の検索とその作用機構
(岡山大・薬) ○綿矢有佑, 平岡 修, 菌部裕美, 吉岡晃子
(昭和大・薬) 松田 彰, 宮坂 貞
(北大・薬) 実吉峯郎, 上田 亨
- 1-19 5-スチリルアラ UTP によるサクラマス精巣 DNA ポリメラーゼ α の選択的阻害:
DNA ポリメラーゼ α 特異的アフィニティクロマトグラフィへのアプローチ
(北大・薬) ○伊豆田俊二, 実吉峯郎

16:45 ~ 17:45

- 1-20 3'-ピロリン酸型ヌクレオチド類の生理活性, とくに 3'-ピロホスホ Coenzyme A に
ついて
(九大・農) ○向井純一郎
(Rockefeller 大) Fritz Lipmann
- 1-21 アデニン環のアミノ基が部分除去された 2,5'-オリゴアデニル酸の合成とその生理活性
(NIH) ○今井二郎, Krystyna Lesiak, Paul F. Torrence
- 1-22 2-5 A およびその類縁体の簡便大量合成
(名大・化測機セ, 名大・理) 早川芳宏, ○内山 守, 昇 忠仁, 野依良治

第2日(10月31日) 9:00 ~ 18:00

9:00 ~ 10:00

- 2-01 水酸基及び塩基部の保護基としてメトキシエトキシメチル基を用いるオリゴリボヌクレ
オチドの合成
(千葉工大) ○伊藤恒彦, 吉川圭吾, 高久 洋

2-02 リン酸トリエステル法における新しい縮合剤を用いた迅速な縮合反応
(東工大・総合理工) ○松崎淳一, 穂戸田仁, 関根光雄, 畑 辻明

2-03 インターヌクレオチド結合側鎖にアミノ基をもつヌクレオチドオリゴマーの合成
(京大・工) 清水剛夫, ○毎熊誠一郎, 山名一成, 矢本修平

10:00 ~ 11:00

2-04 プトレンニルチミンを修飾塩基として含むオリゴヌクレオチドの合成(3)
(北大・薬) ○竹田忠行
(北大・機器分析セ) 池田一芳

2-05 核酸分離HPLC充填剤RPC-5 (NEOSORBLC)の調製と各種オリゴヌクレオチドの
分離精製
(東大・薬) 沢井宏明

2-06 Asahipak GS カラムによる核酸成分の分析
(旭化成・開発技術) ○安川恵子, 笠井雅夫, 柳原裕三, 野口康二

11:00 ~ 11:40

2-07 リボヌクレアーゼの特異性における核酸塩基とアミノ酸側鎖間の素子的相互作用の役割
(東工大・理) ○竹中章郎, 柴田昌之, 滝本みどり, 笹田義夫

2-08 H₂O中でのCAP結合部位22merのNMR
(阪大・蛋白研) ○李 尚鍾, 阿久津秀雄, 京極好正
(阪大・薬) 新 優, 大塚栄子, 池原森男

11:40 ~ 12:20

2-09 アンチコドンを欠いた枯草菌 tRNA^{Thr}の酵素的合成とその生物活性
(自治医大) ○長谷川典巳, 村尾捷利, 石倉久之

2-10 アンチコドンにGAAに改変した tRNA^{Tyr}による poly-(U)依存性 *in vitro* ポリ
フェニルアラニンおよびポリチロシン合成
(名大・理) ○西川一八, 瓜谷真裕, 宮崎正澄, 竹村彰祐

13:20 ~ 14:20

2-11 高度好熱菌 *Thermus thermophilus* HB8 tRNAの構造と耐熱性
(東大・理^{a)}, 日女大・家政^{b)}, 東大・工^{c)}, 国立がんセンター^{d)})
○横山茂行^{a)}, 堀江信之^{a)}, 横山三紀^{a)}, 渡辺達夫^{a)}, 北爪正子^{b)},
高橋征三^{b)}, 渡辺公綱^{c)}, 口野嘉幸^{d)}, 西村 暹^{d)}, 宮沢辰雄^{a)}

2-12 高度好熱性細菌 *Thermus thermophilus* HB27 の tRNA(Gm) methylase の
tRNA 認識機構
(東大・農^{a)}, 東大・工^{b)}) ○松本 隆^{a)}, 渡辺公綱^{b)}, 太田隆久^{a)}

2-13 カイコのアラニル-tRNA 合成酵素のドメイン構造

(名大・理) ○西尾康二, 川上 実

14:20 ~ 15:20

2-14 蛍光プローブを用いた低分子量 RNA の特定部位近傍の構造に関する研究

(東理大・理) 永松和幸, ○鈴木孝一, 宮沢雄治

2-15 5 S rRNA 単結晶のX線・電子線回折

(京大・理) ○森川耿右

(京大・化研) 藤吉好則, 石塚和夫

(名大・理) 川上 実, 竹村彰祐

2-16 塩基配列に依存したDNA構造のラマン分光による研究

(東大・薬) ○西村善文, 鳥越智香子, 片平正人, 坪井正道

15:30 ~ 16:10

2-17 オゾンによるプラスミドDNAの分解様式

(北大・薬) ○沢田石一之, 三浦一伸, 大塚栄子, 上田 亨

(工技院・北開試) 石崎紘三, 神力就子

2-18 Trp-P-2代謝活性化物とDNAとの反応

(岡山大・薬) ○根岸和雄, 若田明裕, 平本一幸, 早津彦哉

16:10 ~ 16:50

2-19 2-アミノジピリド[1,2-a:3',2'-d]イミダゾール-ポルフィリン鉄誘導体によるDNAの塩基配列選択的な切断

(東大・薬) ○橋本祐一, 飯島博之, 李 金星, 首藤紘一

(金沢大・薬) 伊藤道也

2-20 プレオマイシン遷移金属錯体の還元剤, 過酸化水素および光誘起DNA塩基切断特性と生物学的意義

(京大・薬) ○鈴木 匡, 桑原 淳, 杉浦幸雄

17:00 ~ 18:00

特別講演

Chemistry and Biology of Left-Handed Z-DNA

(Univ. of Alabama, Dept. of Biology) Prof. Robert D. Wells

第3日(11月1日) 9:00 ~ 12:00

9:00 ~ 9:40

3-01 21-タングステン-9-アンチモン酸アンモニウム塩(HPA 23)によるDNA合成阻害機構

(愛知がんセンター) ○小野克彦, 中根英雄, 松本孝子

(Pasteur 研) F. Barré-Sinoussi, J.-C. Chermann

3-02 mRNA 2次構造の発現に及ぼす影響

(サントリー・生医研)。野村みどり, 大末和廣, 水野 章, 桜川弥生, 田中正治

9:40 ~ 10:20

3-03 酵母の線状 DNA プラスミド F 2 の末端構造

(三菱化成・生命研)。菊池 洋, 平井啓子, 郡家徳郎, 菱沼文男

3-04 非ヒストン蛋白質 HMG 1, HMG 2 による DNA unwinding 反応

(東北大・農)。吉田充輝, 牧口恭子, 千田美子, 志村憲助

10:20 ~ 11:00

3-05 リチウム DNA Fiber の固体高分解能 NMR

(東薬大)。神藤平三郎, 松本 潮

3-06 A型 DNA における Thymine-Neighbor Base Short Contacts について

(神戸女学院大・家政) 武田泰宏

11:00 ~ 12:00

3-07 塩基配列の比較に基づく大腸菌 RNA ポリメラーゼ σ 因子と λ レプレッサーの相同性

(新潟大・理) 大西耕二

3-08 tRNA によるアミノ酸認識の理論・実験的研究 (II)

(宇宙研)。清水幹夫, 米田茂隆

(東大・工) 三浦謹一郎, 三好 洋, 渡辺公綱

3-09 リボヌクレアーゼ T₁ 遺伝子の合成と発現

(阪大・薬)。桔梗谷正, 青山義行, 藤本和子, 徳永知子, 上杉晴一, 池原森男

(北大・薬) 岩井成憲, 大塚栄子

参加予約申込締切 昭和 59 年 10 月 6 日 (土)

氏名, 所属, 連絡先および懇親会への出欠を明記の上, 郵便振替にて「金沢 8-13950 番, 第 12 回 核酸化学シンポジウム」宛または現金書留にて下記連絡先に御送金下さい。

参加費 (当日渡しの要旨集代金を含む)

予約受付 4,000 円 当日受付 4,500 円

懇親会 昭和 59 年 10 月 30 日 (火) 18:30 から石川厚生年金会館 2 階加賀の間 (金沢市石引 4-17-1 TEL (0762) 22-0011) において, 会費 5,000 円

連絡先 〒920 金沢市宝町 13-1

金沢大学薬学部薬品合成化学教室 藤井澄三 (または板谷泰助)

TEL (0762) 62-8151 内線 4435, 4436

◆昭和 60 年度 ナポリ臨海実験所派遣研究者の募集について (通知)

日本学術振興会は, 国際学術交流の一環として 昭和 40 年度以来イタリアのナポリ臨海実験所へ

の研究者派遣事業を実施しております。従来派遣研究者の募集については、一部の関係学会を通じて行っておりましたが、昭和60年度分からは、海洋生物学に関係のある学会を通じて広く希望者を募ることにいたしました。

1. 応募資格

派遣の対象となる者は、我が国の大学等学術研究機関において常勤の研究の職に就いている研究者であること。

2. 対象分野

海洋生物学の分野

3. 募集人員・派遣期間

◇教授・助教授級	1人	2週間～1か月
◇助手級	1人	4～5月

4. 経費負担区分

◇日本学術振興会負担：渡航費—可能な範囲の低廉航空賃

◇CNR負担：滞在費—短期 80,000リラ/日
長期 1,200,000リラ/月

国内旅費—実費支給

5. 申請受付期間

昭和59年10月1日(月)～昭和59年10月31日(水) 必着

連絡先 〒102 東京都千代田区麴町5-3-1 (ヤマトビル)

日本学術振興会研究協力課ナポリ臨海実験所派遣研究者係

電話 (03) 263-1721 (代表)

◆昭和60年度 山田科学振興財団研究援助候補推薦要領

1. 援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人またはグループに対し援助します。

2. 援助の金額及び期間

イ. 金額

(A) 1千万円前後2千万円以内の援助 (B) 3百万円前後5百万円以内の援助 併せて10数件

ロ. 期間 1年を原則とします。研究の継続を必要とする場合は、毎年提出された推薦書に基づき選考します。

3. 推薦方法

イ. 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者

ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに(A), (B) おのおの1～2件

4. 推薦締切期日 本財団へ推薦者が到着する締切期日は昭和60年3月31日(日)です。

5. 推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団

(Yamada Science Foundation)

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号 ロート製薬株式会社内

電話 大阪(06)758局1231 ロート製薬株式会社呼出

◆第25回(昭和59年度)東レ科学技術賞候補者推薦要領

1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して技術界に貢献するところが大きいもの
2. 科学技術賞……1件につき本賞：金メダル・副賞：300万金(2件前後の予定)
3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内
4. 推薦者……学協会の代表者
5. 推薦手続……所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います。
6. 推薦締切期日……昭和59年11月10日(土)
7. 選考方法……下記委員からなる選考委員会を設けて選考し、評議員会において受賞者を決定します。

選考委員(順不同)

委員長 今堀和友

近藤次郎 櫻井良文 田丸謙二

小口武彦 早川幸雄 田中良平

岡田善雄

8. 科学技術賞の贈呈……昭和60年3月の予定

◆第25回(昭和59年度)東レ科学技術研究助成候補者推薦要領

1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を活発に行っている研究者、またはそのグループ。
2. 研究助成金……総額1億円前後、1件1,000万円程度としますが、あまりこの額にとらわれる必要はありません。とくに重要と認められる研究については3,000万円程度でも助成を考慮します。
3. 候補者推薦件数……1学協会から3件以内
4. 推薦者……学協会の代表者

5. 推薦手続……所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います。
6. 推薦締切期日……昭和59年11月10日(土)
7. 選考方法……下記委員からなる選考委員会を設けて選考し、評議員会において決定します。

選 考 委 員 (順不同)

委員長 今堀和友

近藤次郎 櫻井良文 田丸謙二

小口武彦 早川幸男 田中良平

岡田善雄

8. 研究助成金の贈呈……昭和60年3月の予定

財団法人 東レ科学振興会

〒103 東京都中央区日本橋室町2丁目8番地(三井6号館)

電話 東京(03)245-5919

◆第11回(昭和59年度)日産学術研究助成候補推薦要項

1. 助成の趣旨

自然科学を主とする学術の有意義な研究であって、先駆的かつ独創的なもの、また学際的なグループによって行なわれるものに対し助成を行ない、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与しようとするものであります。

2. 助成対象研究分野

助成対象を資源・エネルギー、環境の分野の基礎研究、および応用研究とし、本年度は当該分野のうち次のような研究を期待します。

なお、極めて創意性に富むもので、これを実証する研究業績によって将来の発展が見込まれる萌芽的研究に対しては一般研究助成(B)とし、また必ずしも実験を伴う研究のみでなく、いわゆるソフトの研究に対しては調査研究助成として扱います。

- ① 高等生物のバイオサイエンス
- ② 環境の改変の生態系に及ぼす影響
- ③ 生物指標による人間環境の評価
- ④ 新しい原理に基づく環境の分析と制御の方法
- ⑤ 環境汚染物質の複合効果とその機構
- ⑥ 有害生物の無公害駆除法
- ⑦ 環境の自然浄化機構
- ⑧ 新しい機能材料
- ⑨ 人間—機械系の解析による安全性向上の研究
- ⑩ 光の関与した高効率エネルギー交換

その他、海洋の利用、輸送システムなどの研究

例示した課題の内容については別添の説明資料をご覧ください。

3. 助成対象の研究者

貴学(協)会に関する自然科学分野の研究に従事しており、1～3年を要する上記の研究を行なおうとする研究者および研究グループで、その研究成果が学術の進歩、発展に貢献する所が大きいと思われるもの。

4. 研究助成金額と助成件数

区分 要項	一般研究助成		調査研究助成
	(A)	(B)	
助成対象	研究期間が長期にわたる研究、学際的グループ研究等 助成期間は2～3年*	極めて創意性に富む萌芽研究 助成期間は1年**	ハードな研究を前提とする調査研究(研究計画の評価有効な研究方法の探究等) 助成期間は1～2年
助成金総額 (1件の金額)	約200,000千円 (上限30,000千円)	約30,000千円 (上限3,000千円)	約10,000千円 (上限4,000千円)
採択件数	10件程度	15件程度	3件以内
助成金の 支払期間	昭和60年度(60/4～61/3)を助成第1年度とし、研究計画に従い年度毎に所要額を交付	昭和60年度に交付	昭和60年度を第一年度とし、研究2年にわたるものは年度毎に所要額を交付
助成金の 使途条件等	_____	_____	主として調査、討議等に要する費用

注) * 研究の性質上、特に必要な場合は研究が4年にわたることを認めます。

** 研究の性質上、研究期間が2年にわたるものも認めます。

5. 推薦件数

助成区分を通じ1学・協会より1～3件とします。

6. 推薦者

学・協会の代表者とします。

7. 推薦手続

所定の推薦用紙に必要事項を記入し、当財団あてに1部をご送付願います。

8. 推薦締切日

昭和59年11月30日(金)

9. 選考方法

下記委員からなる選考委員会において選考の上、当財団理事会で決定します。

(委員長) 向坊 隆

佐々学

田島弥太郎

沼田 真

藤永太一郎

西澤潤一

岡田善雄

有馬朗人

財団法人 日産科学振興財団

〒104 東京都中央区銀座6丁目17番2号

電話 東京(03) 543-5597